



まる お の かい と
丸小野 快人さん
国東高等学校 野球部

主将の丸小野 快人さん（3年生）は、小学校1年生から野球を始め、中学までは主にピッチャーをしていましたが、高校からはセカンドを守り2年生からレギュラーとして活躍しています。現チームは、中学校卒業後、ボランティアで硬式野球を指導している佐藤 博章さんの尽力により、市内出身者が数多く在籍しています。そして、今春の九州地区高校野球大会県予選で、統合後の国東高校として過去最高のベスト4に入りました。

快人さんは、「自分達の持ち味は大きな声なので、ピンチの時ほどしっかりと声を出していきます。そして、みんなで甲子園の土を踏みたいです」と話していました。



え はら かつる
江原 語さん
株式会社江原造船鉄工所（国見町伊美）

江原 語さんは、船の仕様が木造からFRP（繊維強化プラスチック）への移行時期だった昭和55年に県外の会社を辞め、帰省して会社を継ぎました。当時は、漁師の方から新船が年間15隻ぐらい受注され、景気の良い時代でした。しかし、徐々にFRP製の船が漁師の方に行き渡り、新船の受注が減っていきました。しかし、市内で一番古くから建造したドック（上架設備）を持ち、地元の漁師の方との信頼関係を築いてきたので、定期点検や修繕の依頼をいただいています。

語さんは、「息子に対して技術の面で教えることはもうありませんが、私達の仕事はお客様あってのものだということをいつも忘れず、地元の漁師の方々と末永く良い関係を続けていきたい」と話していました。



左から長男の江原 督さん、語さん、次男の玄さん

橋本 弥侑さんは、大学時代に専攻していた化学の知識を活かすため、環境保全に力を入れている会社への就職を希望し、平成29年4月大分キヤノン株式会社に入社しました。半年間の研修修了後、当初からの希望どおり環境保全を担当する施設環境課に配属されました。現在は、工場から出る化学分質の管理や会社周辺の環境整備のイベントなどを担当しています。

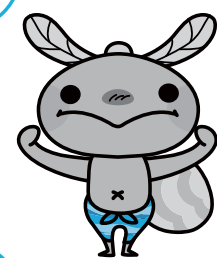
弥侑さんは、「大分空港の近くにある会社なので、空港利用客の皆さんをきれいな景観でお出迎えをしたいと考え、昨年から芝桜の植え付けを始めました。また、長年にわたり会社周辺の清掃活動も続けていますが、地域の皆様とより密接な関係を築いていくため、さらに積極的に環境整備を行っていききたい」と話していました。



はし もと み ゆ
橋本 弥侑さん
大分キヤノン株式会社（安岐町下原）



社員による芝桜の除草作業



各分野で光を放っている 人にスポットをあてる

国東の輝きひと

Vol.2

淵野 聡さんは、平成24年に妻の美由紀さんの故郷である国東市へ別府市から移住してきました。そして、七島蘭農家の松原 正さんに弟子入りし、1年後に「七島蘭工房 倅」を設立しました。設立当初から、収穫量はありましたが、曇表は受注生産のため、曇問屋から指定された納期に間に合わず、注文を断ることもありました。しかし、徐々に七島蘭の選別や織る技術が向上し、一昨年から注文に対応できるようになりました。

聡さんは、「工房の名前に込めた『自分達の七島蘭製品でしあわせになってほしい』という想いで七島蘭栽培に取り組んでいます。そして、自分達が松原ご夫妻から受けたご恩を、いずれは次の世代に還元していきたい」と話していました。



ふち の さとし
淵野 聡さん
七島蘭工房 倅（安岐町西本）



左から淵野 聡さんと妻の美由紀さん